編集発行／塩竈市市民総務部政策課
〒985-8501 宮城県塩竈市旭町1番1号
☎022-355-5728 FAX022-367-3124
塩竈市公式ホームページ
http://www.city.shiogama.miyagi.jp/
E-mail:sisei@city.shiogama.miyagi.jp
コード読取対応 スマートフォンからホームページにアクセスできます

シリーズしおがまの活気・元気 ⑫⑧

宮城県のかるたの聖地に
―鹽竈神社で競技かるた大会開催―

「畳の上の格闘技」と言われる競技かるた。漫画「ちはやふる」で人気になり、競技人口が増えています。

「ちはやふる」の舞台にもなった近江神宮は、競技かるた名人位・クイーン位決定戦や高校小倉百人一首かるた選手権など、多くの大会が行われ「かるたの聖地」と呼ばれています。

鹽竈神社では、今年6月に「全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会宮城県予選」が行われ、かるたの聖地を思わせる会場で、高校生たちが熱い戦いを繰り広げました。

塩竈は「塩竈の浦」「千賀の浦」「籬島」など、多くの和歌に詠まれており、当時の都人の憧れの地とされています。宮城県高等学校文化連盟小倉百人一首かるた専門部の湯本先生は「高校生たちに歌枕の地である塩竈を体感してほしい」と話してくれました。

大会に出場した橋口碧（はしぐちみどり）さんは「一面に広がる畳を見て、とてもわくわくしました。10月の大会は新人戦なので後輩の皆にも勝ち進んでほしいです」と話しました。

皆さんも、歌枕の地で行われる、高校生たちの戦いを体感してみてはいかがでしょうか。

第27回宮城県高等学校小倉百人一首かるた大会
とき 10月13日㈯ 9時～17時
ところ 鹽竈神社大講堂

問 仙台白百合学園高等学校 多賀郁乃☎777-5777

▲札を一瞬で取り合います

▲予選を勝ち抜いた宮城第一高等学校の選手

▲会場となった鹽竈神社大講堂

シリーズ
塩竈の魅力再発見⑤
「文化の港」として開かれ続けるまち

「まちに誇りをもっている人が多く暮らしている。それが一つの魅力ですね」と話したのは、観光振興ビジョン推進メンバーの高田彩さん。

鹽竈神社をはじめ食文化や歴史的建造物など、住民が誇りや愛着を持つことができる要素がたくさんあり、まちの魅力に日々触れることができるからだと話します。

「発信力のある写真家 平間至さんは、塩竈の個性を全国に発信し、さまざまな価値観や人の交流を塩竈にインプットしてくれます。9月に開催されるガマロックでは、塩竈の食を満喫し、このまちで過ごすことを楽しみにしているミュージシャンや来場客が毎年集っています」

高田さんは「歴史文化について地元の先輩から教えてもらいながら、新しい感性や価値観に出会うことができる塩竈。多種多様な人々がいきいきと暮らせるように、さまざまな価値観や感性を受け入れ、発信していくような『文化の港』として、このまちが開かれ続けてほしいですね」と話してくれました。

皆さんが発見した塩竈の魅力をメールにて教えてください。

観光振興ビジョン
推進メンバー
高田　彩さん

問 観光交流課人・まち交流係☎364-1165
Eメール kankou@city.shiogama.miyagi.jp

「広報しおがま」は、22,800部製作し、1部当たりの経費（印刷・発送）は69円です。